

授業概要

春期は博物館・美術館等で実施される実習に先立って、実践的な知識と技術の習得を目的とする。特に実際の現場では、いかなる問題を抱えながら、どのような対応をしているのか、といった視点から実習に際して必要な事柄に対して即効性の高い応用力を養えるような実技中心の内容とする。秋期は実習終了をうけ、各館で体験してきたことを中心に、1人30分間程度の報告をしてもらう。その報告をテーマに受講生全員でのディスカッションを行いたい。また、博物館で行われている各種事業について具体像を検討していく。その上で事業の実際を知るために博物館への見学を2回程度実施する。

授業計画

第1回	ガイダンスー実習予定の確認と検討	第17回	ガイダンスー実習報告に向けての検討
第2回	博物館の実際Ⅰ 諸活動概要	第18回	博物館と資料管理 保存と修復
第3回	博物館の実際Ⅱ 展示計画立案と陳列	第19回	博物館の事業Ⅰ 広報
第4回	博物館の実際Ⅲ 特別展示と資料借用	第20回	演習Ⅶ 広報案の作成
第5回	演習Ⅰ 展示テーマの立案検討	第21回	博物館の事業Ⅱ 出版
第6回	資料取扱いの基礎概説	第22回	演習Ⅷ 出版物計画立案
第7回	演習Ⅱ 資料の取扱い（卷子装）	第23回	博物館の渉外対応（警備・来館者対応）
第8回	演習Ⅲ 資料の取扱い（掛軸装）	第24回	博物館の事業Ⅲ 教育普及事業・イベント
第9回	演習Ⅳ 資料点検調書の作成	第25回	博物館見学Ⅲ（特別展示・企画展示）
第10回	演習Ⅴ 資料梱包	第26回	博物館見学Ⅳ（教育普及事業）
第11回	博物館の実際Ⅵ 資料撮影基礎概説	第27回	演習Ⅸ 教育普及プログラム案の作成
第12回	演習Ⅵ 資料の写真撮影	第28回	報告Ⅰ 博物館実習報告
第13回	博物館見学Ⅰ 施設・設備、資料収蔵庫	第29回	報告Ⅱ 博物館実習報告
第14回	博物館見学Ⅱ 常設展示・平常展示	第30回	報告Ⅲ 博物館実習報告
第15回	報告Ⅰ 実習予定館園概要報告	第31回	実習総括ーディスカッションー
第16回	実習に際しての注意事項説明	第32回	博物館学芸員の未来

到達目標

実習予定館園の概要について基本的事項を把握し、目的意識を抱くように努めること。また実習で博物館園を訪問する前に、学芸員として勤務するのに必要な最低限度の知識と技術の習得を目指す実践的な内容とする。また実習終了後は、現場での経験や知識をもとに、各博物館で行われている諸事業などを検討して個々人が実際に学芸員に採用された場合に、問題意識を持つことが出来るようなディスカッションを行いたい。

履修上の注意

具体的な実習先を決めた上（大学を通じてなど、実習を希望する旨を先方に伝えていること）での履修を条件とする。決まっていない受講生は、必ず授業開始前に希望する館に連絡して確認をとっておくこと。また授業の内容上、受講生と調整の上、日曜日・祝休日に通常の授業を振り替えて実施する場合があることを付け加えておく。

予習復習

本講座は可能な限り受講生の実習先を考慮し、博物館業務に即した実践的な内容とし、学芸員の主業務である展示計画、教育普及事業、各事業企画案などの検討を行う。学生には能動的な姿勢を求めたい。

評価方法

- ① 平常点（各授業での小課題等）
- ② 実習ノート・実習レポート（大学所定）
- ③ 実習報告内容（本講座）
- ④ 春・秋期末に作成の課題（授業課題レポート） これら4つを総合的に判断して評価する

テキスト

使用テキストは特に指定しない。授業各回で資料を配布する予定。また事前に予習したい学生には次のテキストを参考にしてもらいたい。加藤有次・椎名仙卓編『博物館ハンドブック（改定版）』雄山閣出版、2004年 ¥3,990、佐々木利和・松原茂・原田一敏編『新訂博物館概論』放送大学教育振興会、2007年 ¥2,300+税